

## きたいち 11. 北市遺跡

所在地：勝山市北市7-4

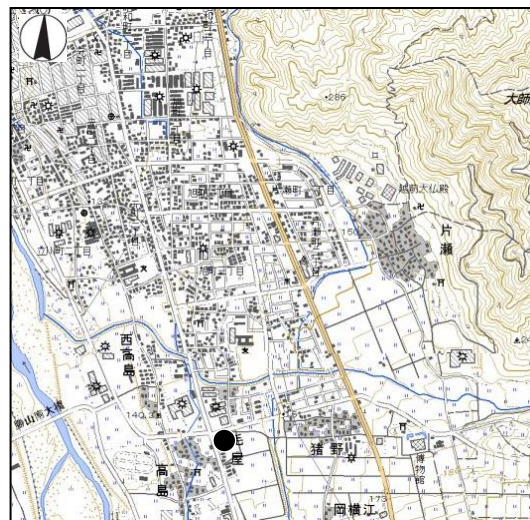
調査原因：公民館調理室増築工事

調査期間：平成29年5月15日～5月31日

調査主体：勝山市教育委員会

調査面積：約36㎡

時代：平安時代、鎌倉時代、江戸時代



位置図(S=1/50,000)

**調査の概要** 北市遺跡は、九頭竜川が右岸に形成した河岸段丘上に立地しています。今回の発掘調査においても、第2次調査（平成8年）で発見した河岸段丘の地形が伺える段差の痕跡が見つかりました。第1次調査（平成6年）では、平安時代初期（9世紀初頭から10世紀初め）に比定される掘立柱建物、竪穴建物など当時の住居を確認し、勝山市域では最大規模の集落と考えられ、律令制下における「毛屋郷」に関連した遺跡として注目を集めました。今回の第3次調査は、第1・2次調査地点の間に挟まれた場所で行われました。

本調査は、公民館調理室の増築に伴うため小規模な面積でしたが、第1次調査の隣接地のため住居跡の検出を想定しておりました。しかし、公民館建設の際に削平を受けたためか、小穴を検出したものの建物を復元することはできませんでした。他には、溝1条、土坑1基、小穴18基を検出しました。調査区東側の半分は川原石を含む地盤になり、東西で地盤が異なっていました。壁面の層位を観察した結果、南北を軸にして西側より東側が一段、高い地形であったことを確認しました。

**遺構** 建物に関する遺構を確認することはできませんでしたが、第1次調査で検出した溝と規模が似る南北方向に延びる溝1条を発見しました。柱穴と想定される小穴2基からは須恵器や土師器が出土しました。

**遺物** 須恵器（甕、蓋、皿）、土師器（甕）、中近世土器・陶磁器の破片が出土しており、総数は約90点を数えます。須恵器や土師器が主体を占め、第1次調査で発見された平安時代初期（9世紀初頭から10世紀初め）の時期に比定されます。

**まとめ** 本調査区は、削平の影響により建物を復元するには至りませんでした。平安時代初期に比定される集落範囲の広がりを考える上では、大きな調査成果がありました。また、第2次調査と同様に中世の遺物が出土したことから、中世の集落がどのように分布していたかについても、今後の発掘調査で明らかになることが期待されます。（藤本康司）



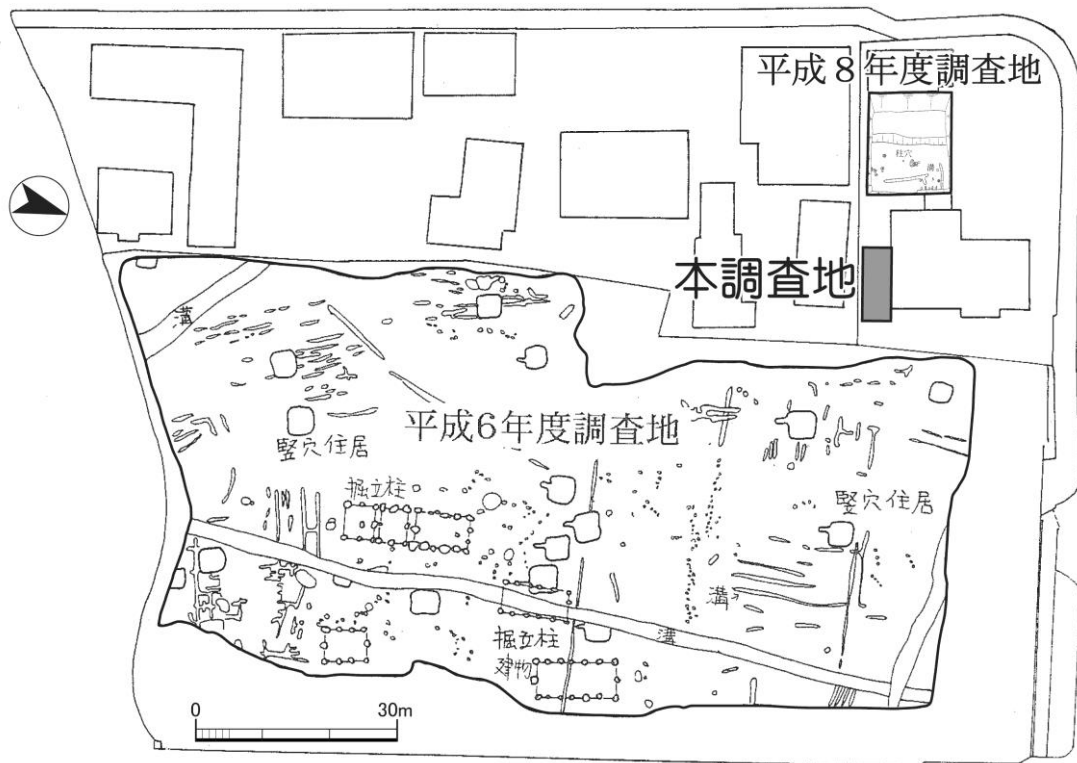
調査地全景（西から）



発掘調査作業状況（南西から）



柱穴からの土器出土状況（西から）



北市遺跡の遺構略図（平面図）